

# 親子共同参加型地域スポーツクラブ参加児童の 身体活動、生活習慣、身体症状、社会性における特徴 —運動・スポーツ活動参加タイプ別の比較から—

○佐藤 百合子(法政大学第二中・高等学校)、朝倉 隆司(東京学芸大学養護教育講座)

【背景】日本社会の著しい変化に伴うほとんど身体を動かさない生活様式 (sedentary life style)への対策は、子ども達の現代的健康課題のひとつである。そこで、総合型地域スポーツクラブの設置は対策の一つとして期待されているが、子ども達のクラブへの参加は運動への親しみや運動意欲を涵養するのかなど、活動についての評価は重要な健康教育の課題である。

【目的】本研究では、広く運動やスポーツの機会を提供する親子共同参加型の S 市総合型地域スポーツクラブ「Y クラブ」の実態を明らかにした上で、そのプログラム内容やねらいが参加児童の心身の健康や心理社会的行動特性面にどのような影響を及ぼしているか、同校区の小学校児童との比較から明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】研究対象は、「Yクラブ」参加児童39名と、同校区のS市立T小学校4～6年生児童382名である。調査は、自記式無記名のアンケート調査とし、2006年11月下旬から12月上旬に行った。調査に際して、プライバシー保護の十分な配慮を保護者に伝え、T小学校長への主旨説明と同意を得るといった倫理的配慮の上で実施した。最初に、クラブの活動実態を明らかにするために観察、運営者や参加児童とその親の意識をインタビューするなどの質的調査を行った。それらを基に作成した身体活動(8項目)、生活習慣(6項目)、身体症状(9項目)、社会性(6項目)の項

目(回答は4段階評価)に対して、それぞれ探索的因子分析を行った後、確認的因子分析を実施した。

【結果】探索的因子分析の結果、4因子が抽出された。それぞれの確認的因子分析の適合度指標と信頼性係数は、「身体活動への積極性」(CFI=0.971, RMSEA=0.062,  $\alpha=0.83$ )、「規則正しい生活習慣」(CFI=0.986, RMSEA=0.031,  $\alpha=0.63$ )、「身体症状の訴え」(CFI=0.940, RMSEA=0.073,  $\alpha=0.83$ )、「向社会性」(CFI=0.940, RMSEA=0.085,  $\alpha=0.72$ )と解釈でき、良好な適合度であった。

その後、4因子を尺度化した得点について、Yクラブ児童(以下Ⅰ群)、Yクラブ児童を除くT小学校児童で他の運動・スポーツ活動に参加している児童(以下Ⅱ群)、運動等に参加していない非参加児童(以下Ⅲ群)に3分類し、一般化線形モデルを用いて性と学年を調整した上で参加タイプと各尺度得点の関連を検討した。その結果、4尺度全てで参加タイプと有意な関係が認められた。すなわち、その後の多重比較の結果をみると、Ⅰ群とⅡ群は、Ⅲ群よりも「身体活動への積極性」や「規則正しい生活習慣」が高かった。またⅠ群は、Ⅲ群よりも「身体症状の訴え」が低く、Ⅱ群とⅢ群と比べ「向社会性」の得点が有意に高かった。

【結論】Yクラブの特徴的プログラムが、性・学年の影響を調整した上でも、参加児童に対し、身体的健康面のみではなく、心理社会的行動特性面においても、おおむね好ましい効果をもたらしていることが示唆された。

連絡先：E-mail ; ysato@hosei2.ed.jp